学校だより
NO　10
R2　10/1

青雲の志（こころざし）

中央市立田富中学校
編集　校長　山本成利

校訓　誠実

学校教育目標
豊かな心を持ち，たくましく生きる生徒の育成

笑顔があふれた“青雲祭”

朝晩は秋を感じさせてくれるようになってきました。９月１５日（火）・１６日（水）には，第５２回青雲祭が『UP！！！　～We can do it～』のテーマのもと開催されました。これまでの練習の成果を発揮しようと全校一丸となって文化の部，体育の部に取り組んできました。

１日目の文化の部では，発表の場がなかった文化部の生徒にとっては，貴重な発表の機会となりました。生徒会本部とコンピュータ部による開催セレモニー，全校制作の発表からはじまり，合唱部の息の合ったきれいなハーモニー，吹奏楽部の体育館を揺らすような素晴らしい発表等がありました。大きなコンクール等が中止になるなか，貴重な場，そして３年生にとっては集大成の場となったことでしょう。また，展示等では，青雲祭のポスター掲示，美術部，家庭科部，コンピュータ部の展示がありました。学年，クラスの発表については，今年度は合唱を中心に発表を行いました。１年生は，中学校での初めての合唱でした。『Voyager～星の王子様と旅をしよう～』のテーマのもと，学年，クラスと発表を行いました。緊張の中，頑張って発表していました。上級生の姿を見て，仲間と協力することの大切さを学ぶことができました。２年生は，テーマ『サウンド・オブ・ミュージック』のもと，ミュージカル仕立ての発表を行いました。きれいなハーモニーで物語を繋げ，素晴らしい発表となりました。昨年度より質の高い合唱となり，大きな成長を感じました。３年生は，『オーバー・ザ・オーバー～遺～』とし，これまでの経験を生かし，パートリーダーや指揮者，伴奏者が中心となり，クラスの仲間に声を掛け合い，創り上げ，過去を懐かしく振り返り，これからの自分たちを考えていくことを表現してくれました。どのクラスの発表も素晴らしかったのですが，私は，特に学年合唱『春に』は，圧倒的な歌声で，体育館中に素晴らしいハーモニーが響き渡り，とても感動しました。中学生の合唱の良さは，３年間のなかで成長と共に声の質も変わっていく中で，できあがっていく喜びです。初々しい１年生の合唱が，学年が上がるごとに大人に近い声になっていき，澄んだ女声，力強い男声が美しいハーモニーを生み出していく中に成長の証を感じることができます。３年生の発表は，今回初めて聴いた１年生，来年度最高学年となる２年生の心に，かけがえのない，素晴らしい伝統を残してくれたと思います。

２日目の体育の部は，多くの保護者の方々に応援をいただきました。（１学年保護者１０１名，２学年保護者１０６名，３学年保護者１３５名）体育の部は『全校応援』からはじまりました。応援団の指揮のもと，気合の入った素晴らしい応援からスタートすることができました。色組リーダーの選手宣誓の後，３密を避けてできるような競技をと工夫し，例年とは少し違った形でしたが，その中で必死に，そして楽しく，様々な競技に生徒は頑張っていました。特に１年生は初めてでしたが，本番で練習の成果を発揮していました。全員リレーではどのクラスも必死でバトンをつなぐ姿が感動的でした。学年種目は真剣な勝負の中に各学年ともほほえましいシーンもたくさんありました。色別競技では３つの競技に分かれて行いました。いかだ流しで上を走った１年生に３年生が「よく頑張って走ったね。」と声をかけるなど，３年生のリーダーシップが随所に見られました。最後の種目の長縄では，最後まであきらめずに声をかけ，心を合わせて競技する姿が印象的でした。生徒たちの一生懸命頑張る姿，笑顔あふれる姿がたくさん見ることができた，素晴らしい２日間でした。

自分で体験することが学びの基本～山梨探訪より～

新型コロナウイルス感染拡大防止のため，延期となっていた２年生の「山梨探訪」が９月２５日（金）に行われました。本来なら１泊２日の校外学習でしたが，１日だけとし，様々な新型コロナウイルス対策を行っていく中での実施となりました。当初は，公共交通機関の利用を考え，グループ行動を計画していましたが，新型コロナウイルス感染拡大防止のため，バスによるクラス行動だけに変更しました。方面については，富士山周辺や富士五湖方面とし，山梨について学び，ふるさとを大切に思う心を育成したいと考えました。当日は，小雨が降る時間もありましたが富士山五合目は晴れていたようです。また，風穴や氷穴，コウモリ穴のなかを散策したりと，貴重な体験を行い，ふるさとである山梨について学ぶ良い機会となりました。

「他人の心の動きは，自分の体験に照らしてしか理解できない」という言葉がありますが，自分が実際に体験したことでないと自然の豊かさや人の心の様子は理解しにくいと言う意味です。確かに，私たちは実際に森林の中を歩くとき，草木の香りを感じ，自然の素晴らしさを知る。人を思う体験があってはじめて悲しさやうれしい気持ちがわかる。文章や言葉で自然や人間の尊さを言われても実感はしにくいのです。さらに，人は，自分で地道に積み重ねて体験したことは真にわかるとも言われています。たとえば，テスト勉強で，参考書にうまくまとめられてあるものをつけ焼き刃で覚えてもテストが終わると忘れてしまいます。ところが，自分で考え工夫してまとめた内容は不思議とよく覚えていたり，他の場所で役に立ったりすることがあります。これは，自分で苦労して地道に繰り返した「体験」が人間の真の学力や対応力・判断力として根付き，応用力にもなっている場合があるからです。様々な学びを苦労し工夫し，自分で納得して楽しんでいく「体験」があってはじめて，自分の多様な能力となっていくわけです。また，人間には，体験を基にした予測・予知能力があることから，体験したことから飛躍した学習成果も生まれる場合があります。中学校時代が人生の中でもとくに輝いていたと振り返る人が多いのは，たくさんの価値ある「体験」があるからだと言われています。すべて人生の思い出として永遠に残る貴重な体験を積み重ねて，真の学習を積み上げてほしいと思います。新型コロナウイルスの影響で今年度は，例年よりも「体験」等の学習の機会が減っていますが，これからは感染予防対策を行う中で，生徒のよき体験ができるよう，教育活動を進めていきたいと思います。

高齢者との交流について　合唱部

本校の合唱部では，毎年，特別養護老人ホーム田富荘（中央市）と介護老人保健施設ノイエス（昭和町）にそれぞれ慰問をし，高齢者の方々に合唱を聴いていただいています。今年度は，新型コロナウイルス感染防止対策のため，訪問して合唱を披露することができません。そこで，演奏をDVDに録画し，プレゼントさせていただきました。田富荘とノイエスの代表の方に，合唱部を代表して藤谷瑠菜さんが訪問し，手渡すことができました。これからもこの交流を継続していってほしいと思います。